

平成24年度建設副産物実態調査

利用量・搬出先調査票入力システムのデータ構成の公開

1. 目的

建設副産物実態調査では、「データの精度の向上」、「発注者のチェック負担の軽減」などの観点から、電算システムによるデータ提出をお願いしています。

一方、大手ゼネコンやハウスメーカーなどにおいては、建設資材や建設副産物に関する数量、搬出先情報などを管理する自社システムを保有していることがあります。

そこで、調査対象者である元請業者等のデータ入力の省力化を目的に、「平成24年度建設副産物実態調査 利用量・搬出先調査票入力システム」（以下、「H24センサス入力システム」という。）のデータ構成を公開することとしました。

2. データ構成

H24センサス入力システムで作成される「提出用ファイル」（LZH形式）を解凍すると、CSV（カンマ区切り）形式ファイルが6個、及び登録件数等が記載されたテキストファイルが1個作成されます（解凍するにはLHAを解凍するためのソフトウェアが必要です）。

CSVファイルは、登録工事データの固有情報、工事概要、建設資材利用、建設資材利用内訳、建設副産物発生、建設副産物搬出のデータのファイルであり、各ファイルの1列目にある[工事ID]で関係付けしています。

作成されるCSVファイルの内容は、次表のとおりです。

表1. H24センサス入力システムのテーブル構成

No.	テーブル名称	説明
1	EE_01.csv	工事IDを管理するためのテーブル
2	EE_02.csv	工事概要を管理するためのテーブル
3	EE_03.csv	建設資材利用データを管理するためのテーブル
4	EE_04.csv	建設資材利用データ(内訳)を管理するためのテーブル
5	EE_05.csv	建設副産物発生データを管理するためのテーブル
6	EE_06.csv	建設副産物搬出データを管理するためのテーブル
7	sample.txt	登録件数などを記載したテキスト

それぞれのテーブルの構成は、次頁以降に示します。

<EE_01. CSVの構成>

N0	項目名称	タイプ	サイズ	インデックス	項目説明
1	工事ID	数値型	0	PrimaryKey	すべてのマスターテーブルを関連づけ
2	乱数	数値型	0		「工事ID」と同じ数値にしてください。
3	初期登録日時	テキスト型	20		新規登録確定時に生成する日時。 [西暦下2桁][月2桁][日2桁][時24時間制2桁][分2桁][秒2桁]
4	最終更新日時	テキスト型	20		変更削除確定時に更新する日時。 [西暦下2桁][月2桁][日2桁][時24時間制2桁][分2桁][秒2桁]
5	削除フラッグ	数値型	0		工事全体を無効とするキー 0=有効、1=無効
6	システム判別コード	数値型	0		「17」で固定してください。
7	Accessバージョン	テキスト型	20		空欄
8	ランタイム	数値型	0		空欄
9	Windowsバージョン	テキスト型	20		空欄
10	マーク	数値型	0		空欄
11	超過連番	数値型	0		空欄

<EE_02. CSVの構成>

NO	項目名称	タイプ	サイズ	インデックス	項目説明
1	工事ID	数値型	0	PrimaryKey	すべてのマスターテーブルを関連づけ
2	作成年	数値型	0		1~99(平成年)。データを作成した年
3	作成月	数値型	0		1~12。データを作成した月
4	作成日	数値型	0		1~31。データを作成した日
5	発注機関コード	テキスト型	6		コードA(MC01_HACHU_KIKAN)
6	発注担当者	テキスト型	100		
7	発注TEL	テキスト型	100		
8	工事名	テキスト型	250		
9	住所コード	テキスト型	5		コードB(MC04_JUUSHO)
10	工期開始年	数値型	0		1~99(平成年)。
11	工期開始月	数値型	0		1~12。
12	工期開始日	数値型	0		1~31。
13	工期終了年	数値型	0		1~99(平成年)。
14	工期終了月	数値型	0		1~12。
15	工期終了日	数値型	0		1~31。
16	工事種別コード	テキスト型	3		コードC(MC03_KOUJI_SHUBETSU)
17	震災コード	数値型	0		1=震災が原因による解体工事 2=震災が原因による復旧・建設工事 3=それ以外の通常工事
18	請負金額	数値型	0		万円単位
19	請負会社名	テキスト型	100		
20	請負会社名_フリガナ	テキスト型	100		全角カタカナ
21	代表者氏名	テキスト型	100		
22	代表者氏名_フリガナ	テキスト型	100		全角カタカナ
23	請負会社〒	テキスト型	8		半角数値 7桁郵便番号 区切りハイフン(半角)含む
24	請負会社所在地	テキスト型	100		
25	工事責任者	テキスト型	100		
26	調査票記入者	テキスト型	100		
27	請負TEL	テキスト型	100		
28	請負FAX	テキスト型	100		
29	延床面積	数値型	0		建築・解体工事のみ
30	構造	数値型	0		建築・解体工事のみ 1=鉄骨鉄筋コンクリート造 2=鉄筋コンクリート造 3=鉄骨造 4=コンクリートブロック造 5=木造 6=その他
31	マーク	数値型	0		空欄

<EE_03. CSVの構成>

NO	項目名称	タイプ	サイズ	インデックス	項目説明
1	工事ID	数値型	0	PrimaryKey	すべてのマスターテーブルを関連づけ
2	資材コード	数値型	0	PrimaryKey	1=山砂、山土などの新材 2=土質改良土 3=建設発生土(第1種~第4種、浚渫土以外の泥土) 4=浚渫土 5=建設汚泥処理土 6=再生コンクリート砂 7=生コンクリート 8=木製資材 9=アスファルト混合物 10=砕石(鉱さい) 11=砕石(鉱さい以外の砕石)
3	搬入利用量	数値型	0		0~999999999(9桁)。 表示は小数点第一位までだが、入力は10倍した数値。 例) 10.6トン⇒106と入力
4	現場内利用量	数値型	0		0~999999999(9桁)。 表示は小数点第一位までだが、入力は10倍した数値。 例) 10.6トン⇒106と入力
5	マーク	数値型	0		空欄

<EE_04. CSVの構成>

NO	項目名称	タイプ	サイズ	インデックス	項目説明
1	工事ID	数値型	0	PrimaryKey	すべてのマスターテーブルを関連づけ
2	資材コード	数値型	0	PrimaryKey	次の品目のみ対象。 2=土質改良土 3=建設発生土(第1種~第4種、浚渫土以外の泥土) 4=浚渫土 5=建設汚泥処理土 6=再生コンクリート砂 7=生コンクリート 8=木製資材 9=アスファルト混合物 11=鉱さい以外の砕石
3	箇所コード	数値型	0	PrimaryKey	次の品目が対象であり、複数箇所追加が可能。 2=土質改良土 3=建設発生土(第1種~第4種、浚渫土以外の泥土) 4=浚渫土 5=建設汚泥処理土 6=再生コンクリート砂 7=生コンクリート 8=木製資材 9=アスファルト混合物 11=鉱さい以外の砕石 ただし、7=生コンクリートについては、次の箇所コードで固定とするが、1種類しか利用していない場合でも、「1~4」は全て登録が必要。 1=コンクリート用再生骨材Hを用いた生コンクリート 2=コンクリート用再生骨材Mを用いた生コンクリート 3=コンクリート用再生骨材Lを用いた生コンクリート 4=上記以外の生コンクリート(新材も含む) また、8=木製資材、9=アスファルト混合物、11=鉱さい以外の砕石については、箇所コード1で固定
4	供給元場所住所コード	テキスト型	5		コードB(MC04_JUUSHO)
5	供給元種類コード	数値型	0		1=他の工事現場(内陸) 2=他の工事現場(海面) 3=再資源化施設 4=土砂ストックヤード 5=その他
6	再生資材利用量	数値型	100		0~999999999(9桁)。 表示は小数点第一位までだが、入力は10倍した数値。 例) 10.6トン⇒106と入力
7	マーク	数値型	0		空欄

<EE_05. CSVの構成>

NO	項目名称	タイプ	サイズ	インデックス	項目説明
1	工事ID	数値型	0	PrimaryKey	すべてのマスターテーブルを関連づけ
2	副産物コード	数値型	0	PrimaryKey	1=建設発生土(第1種～第4種、浚渫土を除く泥土) 5=浚渫土 6=コンクリート塊 7=アスファルト・コンクリート塊 8=建設発生木材A 9=建設汚泥 15=建設発生木材B
3	現場内利用量	数値型	0		0～999999999(9桁)。 表示は小数点第一位までだが、入力は10倍した数値。 例) 10.6トン⇒106と入力
4	現場内減量化量	数値型	0		0～999999999(9桁)。 表示は小数点第一位までだが、入力は10倍した数値。 例) 10.6トン⇒106と入力
5	マーク	数値型	0		空欄

<EE_06. CSVの構成>

NO	項目名称	タイプ	サイズ	インデックス	項目説明
1	工事ID	数値型	0	PrimaryKey	すべてのマスターテーブルを関連づけ
2	副産物コード	数値型	0	PrimaryKey	1=建設発生土(第1種～第4種、浚渫土を除く泥土) 5=浚渫土 6=コンクリート塊 7=アスファルト・コンクリート塊 8=建設発生木材A 9=建設汚泥 10=混合状態の廃棄物(建設混合廃棄物) 11=金属くず 12=廃プラスチック類(廃塩化ビニル管・継手を除く) 13=紙くず 15=建設発生木材B 16=その他の分別された廃棄物 18=廃石膏ボード 19=廃塩化ビニル管・継手
3	箇所コード	数値型	0	PrimaryKey	
4	搬出先場所住所コード	テキスト型	5		コードB(MC04_JUUSHO)
5	運搬距離	数値型	0		
6	搬出先種類コード	数値型	0		コードD ・発生土:MC13_HANSHUTSUSAKI_SHUBETSU_HASSEIDO ・廃棄物:MC13_HANSHUTSUSAKI_SHUBETSU
7	搬出量	数値型	0		0～999999999(9桁)。 表示は小数点第一位までだが、入力は10倍した数値。 例) 10.6トン⇒106と入力 ただし、廃塩化ビニル管・継手の単位は、kg
8	マーク	数値型	0		空欄

3. データ作成手順

データ作成の手順は、次のとおりです。

- ①国土交通省のリサイクルホームページにある、H24センサス入力システムの「提出用ファイル」であるファイル名「sample_lzh」をダウンロードし、解凍してください（解凍するにはLHAを解凍するためのソフトウェアが必要です）。
- ②前述2「データ構成」で示した構成に従い、各建設会社が保有するデータベースよりデータ変換を行ってください。データ変換を行う際には、前述2の各表に示した定義に必ず従ってください。
- ③次のコードは、国土交通省のリサイクルホームページに掲載していますので、必要に応じて参照してください。

コード名	コード種類	ファイル名
コードA	発注機関	MC01_HACHU_KIKAN.txt
コードB	住所	MC04_JUUSHO.txt
コードC	工事種別	MC03_KOUJI_SHUBETSU.txt
コードD	搬出先種類	●発生土： MC13_HANSHUTSUSAKI_SHUBETSU_HASSEIDO.txt ●廃棄物： MC13_HANSHUTSUSAKI_SHUBETSU.txt

- ④データを作成後、全てのファイル（EE_01.CSV～test.txt）を選択し、LZH形式に圧縮してください。
- ⑤前述④で作成した圧縮ファイルを、H24センサス入力システムへインポートしてください。無事にインポートできなかった場合は、データコンバート等に問題がありますので、再度見直しを行ってください。
- ⑥前述⑤で、H24センサス入力システムへ無事にインポートできた場合、システムでのエラーチェックを行い、「必須エラー」がないか確認してください。「警告エラー」がある場合は、データの内容が正しいか確認してください。

以上